

## 「年間第 18 主日」 2021 年 8 月 01 日 「一緒に祈りましょう」

皆様、  
主の希望、信頼、平和のうちに、  
難しい時期ですが、復活の光であるイエス・キリストはわたしたち一人一人を教会共同体として導いてくださっています。信仰はわたしたちの盾です。

8月01日は、**「年間第18主日B」**です。

では、ミサに参加することができない方々は、一緒に心をあわせて、祈りましょう。時間がある時は、一本のろうそくをつけて、沈黙し、十字架のしるしをゆっくり行いましょう。

「聖書と典礼2021.8.01」をお持ちであれば、その流れに従って、次にあるコメントを自由にお使い下さい、少なくとも、聖書を開いて、第一朗読 出エジプト記16.2-4、12-15と、「答唱詩編」78 (77)、第二朗読 使徒パウロのエフェソの教会への紙 4.17、20-24と、ヨハネによる福音6章24-35節を読み、個人的に黙想し、神のみ言葉についての分かち合い / 共同祈願を行いましょう。

コメント アントワン神父

### I- 第一朗読 出エジプト記16.2-4、12-15 について

エジプトから解放された神の民は「荒れ野での生活」に慣れていないので再び指導者モーセと神に、状況の厳しさから不満を漏らします。神は「毎日必要な分だけ」「天からパンを降らせ(ました)」。

この出エジプト記の12-15節は今日のヨハネの福音に繋がっています。荒れ野のパンで満腹しても、そのパンを頂いた人々は死にました。イエスが与える命のパンを頂く人々は、死んでも永遠の命を受けるのです。そしてイエスの与える命のパンは、そこにいる人々の「毎日の必要な分だけ」ではなく、余る分があり、他の沢山の人も、この命のパンを受けることが出来るのです。

### II- 「答唱詩編」 78 (77) について

この長い詩編は72節まであります。この詩編は神と神の選んだ民との約束の歴史の流れと、重要な点を語ります。「耳で聞いて知ったこと、先祖がわたしたちに伝えたこと、... 次の世代に語り告げよう」(3節)。イスラエルの人々はこの詩編を唱えながら、神との約束を忘れないように感謝して祈りました。カトリック教会では、この詩編を四旬節の時によく使います。それはイエスの受難と復活がその神との約束に深く繋がっているからです。

父である神は人間の歴史の中にその意向を表しています。イエスは人間の歴史に入って、その歴史に新しい流れを与え、信仰の道をすべての人々に開き、永遠/天国の命へ導いてくださいます。

### III- 第二朗読 使徒パウロのエフェソの教会へ手紙 4.17.20-24 について

使徒パウロは、イエスの福音が「新しい人」を造るというメッセージをエフェソの教会の信徒たちに教えています。

### IV- ヨハネによる福音6章24-35節 について

17主日から19主日までヨハネによる福音の6章を聞くこととなります。その6章は「イエスの命のパンの話」と言われています。今日の24-36節によりイエスは「命のパン」と信仰が深く繋がっていると教えています。

「何をしたら良いでしょうか」とイエスが配ったパンのしるしを見ても、しるしの意味を理解出来なかった群衆は尋ねました。イエスが答えたのは、荒野でのパンは満腹しても、そのパンを頂いた人々は死にました。同じようにイエスからパンを頂いた五千人は、満腹しましたが、次の日にも、また一日の分のパンを待ち望んで、イエスの所に集まって来ました。

しかし、イエスが与える「命のパン」を頂く人々は、死んでも永遠の命を受け取ります。イエスの「命のパン」を受けたい人は、「信仰の道」を歩み始めなければならないと、イエスは教えました。そしてその条件として、「私を信じること」とイエスは言われます。

「信じる」とは、「人」が「言(葉)」と一つになることです。「言」を信じる人とは、その言を100%理解すること、全てを分かるという意味ではありません。「言」の意味を少しずつ深め、「言」を受け入れて、一つになることなのです。長い道です。

イエスにとって、「命のパン」(御聖体を頂くこと)、と「命の言葉」(福音を心に受け入れること)、それは「信じる」ことで、イエスと一つになり、永遠の命を得ることなのです。「永遠の命に至る食べ物のために働きなさい」(27節)とイエスは言われました。

「何をしたら良いでしょうか」と私たちは尋ねたら、答えは「信頼の内に、信仰の道を歩む」、ということなのではないでしょうか。

(沈黙、分ち合いか/共同祈願か)

次に、祈りましょう。(ミサの集会祈願)

「私たちの飢えも渇きもご存知である神よ、救いを求めて祈る私たちの集いを祝福して下さい。命の言葉、命のパンであるキリストに出会い、一人ひとりの内に生きる力が満ちあふれる満ちあふれますように。

聖霊の交わりのなかで、あなたとともに世に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

最後に 十字架のしるしをゆっくり行いましょう。「父である神様に感謝」。

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈りを一緒に祈りましょう。(別紙)

## 新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、  
新型コロナウイルスの感染拡大によって、  
今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、  
感染の終息に向けて取り組むすべての人、  
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。

亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、  
尽きることのない安らぎに満たされますように。  
不安と混乱に直面しているすべての人に、  
支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、  
わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、  
世界のすべての人と助け合って、  
この危機を乗り越えることができるようお導きください。  
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

希望と慰めのよりどころである聖マリア、  
苦難のうちにあるわたしたちのためにお祈りください。

(2020年4月3日 日本カトリック司教協議会認可)

### Prayer for the World Suffering from the New Coronavirus Pandemic

O loving God,  
Look kindly upon the world, now in great difficulty  
Through the spread of the new coronavirus.  
May necessary medical care be given to those who suffer from the disease.  
Guide those who work toward ending the infection.  
Protect all healthcare workers and all those who care for the sick.  
Welcome the deceased into your eternal kingdom.  
Fill them with everlasting peace.  
May hands reach out to help everyone facing anxiety and confusion.  
God, the source of hope,  
Guide us in this crisis  
That we may spare no sacrifice to prevent the spread of the infection,  
That we may serve everyone in the world,  
We ask this through our Lord Jesus Christ. Amen.  
Mary, source of hope and comfort, Pray for us in this hardship.

(Approved by the Catholic Bishops' Conference of Japan, April 3, 2020)